

「全高書研参加報告」

第四十八回全日本高等学校書道教育研究会茨城大会

八幡工業高校 坂本 順司

令和五年十一月九日(木)・十日(金)に、茨城県水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館で標記の大会が開催された。本県の部会からは副会長と総務・研究部長の二名が参加させていただいた。大会テーマ『学びに向かう力と人間性を育む書道教育』を感じる・伝える・高め合う授業を目指して』の下、左記の授業研究、研究発表等が行われた。

●授業研究および研究協議

A 【漢字の書】 学校設定科目 「篆書から篆刻へ ―筆意を生かした篆刻制作を目指して―」 水戸葵陵高等学校 教諭 辻 哲一

B 【漢字仮名交じりの書】 書道Ⅱ 「意図に応じて創造的に構想し表現を工夫する授業実践 ―グループによるカレンダー制作を通して―」

茨城県立麻生高等学校 教諭 青木 理楓

C 【漢字の書】 書道Ⅰ(事前録画) 「古典に基づいて構想し表現を工夫する力を育む学習指導 ―自詠五言句の作品制作を通して―」

茨城県立水戸第一高等学校 教諭 藤枝 咲絵

●研究発表および研究協議

A 生活や社会の中の書と関わる生徒の主体的活動

・【漢字かな交じりの書】 書道Ⅰ 「産学連携としての書道教育―那珂湊のまちづくりと共に歩む本校の取り組み―」

茨城県立那珂湊高等学校 教諭 香取 潤哉

・【漢字かな交じりの書】 書道Ⅰ 「地域に向けた高校書道教育の発信

―授業作品展『高工展』の実践を通して―」

群馬県立高崎工業高等学校 教諭 國定 貢

B 意図に応じた表現を構想し工夫する活動

・書道Ⅱ 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な展開に向けたICT活用実践事例」

京都府立鴨沂高等学校 教諭 霊園 淳

・【漢字の書】 書道Ⅱ 「効果的・効率的な篆刻指導 ―ワークシートの活用と布字の工夫―」

C 書の伝統と文化の価値を考え、書の美を味わう対話的な活動

・【仮名の書】 書道Ⅱ 「鑑賞に表現を関連させた授業づくりの実践 ―三色紙の鑑賞から書の伝統と文化を学ぶ―」

茨城県立水海道第二高等学校 教諭 打越 茉衣

・【漢字の書】 書道Ⅰ 「探究的に考えるための技法を取り入れた鑑賞活動 ―根拠を明確にしながら古典の良さを分析するために―」

北海道有明高等学校(遠隔授業配信センター) 教諭 土佐 弥

報告者は「授業研究および研究協議C」・「研究発表および研究協議A」に参加。

「授業研究および研究協議C」の学習単元は七時間。自詠五言句の作成は教科横断的な要素を伴うが、藤枝先生ご自身が指導。作品制作においては、生徒自身が創作の土台として選んだ古典からの集字(タブレット使用)。「表現の構想・工夫」とその「見直し」の中では、特に用具・用材の特徴と表現効果に着目させ、運筆の速度や筆圧の変化による線質の変

化について、「思考・判断・表現」の観点に重きをおいた授業を展開。大会二日目の全体会の講評(文科省教科調査官)では、ICT機器使用と、従来からの板書とのバランスの良い展開であったことが評価された。

「研究発表および研究協議A」の香取先生のご発表は、那珂湊高等学校グランドデザインのもと、産学連携事業の一環として、地元商店との協働的な取り組みで、クリーニング店やパン屋の看板作成を行うというもの。フィールドワークを重ねるなど、実践的な取り組みであった。

「研究発表および研究協議A」の國定先生のご発表は、高崎工業高等学校が長年取り組まれている授業作品展、『高工展』の取組を発表された。この「書道」二単位は第三学年で全生徒が履修。作品題材の選定においては、三年次生徒だからこそ表現できる豊かな内容で、高校三年間の様々な経験が紡ぎだす内容であった。

●全体会ブロック協議

大会二日目、全体会のブロック協議では、特に次年度の川崎特別大会(神奈川県川崎市)を機に、従来の「授業研究および研究協議」に加え、「各ブロック発表研修 分科会・研究協議」を行う計画が示された。このことについて、九州・沖縄ブロック協議では、各県の人員的な環境を考慮し、発表者の選出順をどのようにもちまわるのかについての話し合いがなされた。結論、現段階では数年に一度、本県からの発表者選出が求められている。

この件については、本県部会の活性化に繋がることでもあろうが、今後の部会会議等を通じ、また何より本学会会長、顧問の先生方のご指導・ご助言を賜りながら検討させていただきたいと考える。

2024(令和6)年 第49回全日本高等学校書道教育研究会 川崎特別大会

【大会主題】 「高等学校芸術科書道とは」

～高等学校教育の中における書道教育の役割を改めて考える～



全高書研 <http://zenkoushoken.sun.bindcloud.jp/> より